TADOKU JUNIOR やさしい名作リーダー ★★★☆☆ ふつう 376語

Jason and the Dragon

イアソンとりゅう

E. Louise Smythe（1904年の本） 原文そのまま 朗読：Sarah Jennings、Abby

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ 王さまは金の毛皮をなかなかわたしてくれません。毛皮のそばには、決してねむらないりゅうがいます。メデイアのちえをかりて、イアソンは毛皮を手に入れられるでしょうか。

The next day Jason went to the king and said, "Now, give me the golden fleece."

The king did not give it to him, but said, "Come again."

Then Medea said, "If you want the golden fleece, you must help yourself. My father will not give it to you. A dragon is by the tree where the golden fleece is, and he never sleeps. He is always hungry and eats people if they go near him. I can not kill him but I can make him sleep. He is very fond of cake. I will make some cake and put in something to make the dragon sleep."

So Medea made the cakes and Jason took them and threw them to the dragon.

The dragon ate them all and went to sleep.

Then Jason climbed over the dragon and took the nail out of the tree.

He put the golden fleece under his coat and ran to the ship Argo.

Medea went with him and became his wife.



Oh, how angry the king was! He had lost the golden fleece and the brass bulls and the dragon's teeth. And now his daughter was gone.

He sent his men in ships to take Jason, but they could not get him.

At last Medea and Jason and the other Argonauts came to Greece.

Jason's father was there. He was a very old man. Jason wanted his father to be king, so he asked Medea to make the old man young.

Then Medea took her carriage and flew through the air.

She did not come back for nine days. She picked flowers from the hills. She found all kinds of stones, too.

When she went home she put all these things into a pot and cooked them.



Then she put a stick into the pot and leaves grew on it.

Some of the juice fell on the ground and grass grew up.

So Medea knew the juice would make things grow.

Jason's father went to sleep and Medea put some of the juice into his mouth.

His white hair turned black and teeth grew in his mouth.

When he woke up, he looked and felt like a young man.

He lived many years and when he died Jason was king.

次の日、イアソンは王さまのところへ行って言いました。「さあ、金の毛皮をください。」

王さまは毛皮をわたさずに、「また来なさい。」と言いました。

するとメデイアが言いました。「金の毛皮がほしいなら、自分で取るしかありません。父は、あなたにわたすつもりはないのです。金の毛皮がある木のそばには、りゅうがいて、決してねむりません。りゅうはいつもおなかをすかせていて、近づく人を食べてしまいます。わたしにはりゅうをころすことはできませんが、ねむらせることはできます。りゅうはケーキが大好きなのです。ケーキをつくって、りゅうがねむくなるものを入れておきましょう。」

そこでメデイアはケーキをつくり、イアソンはそれを持っていって、りゅうに投げてやりました。

りゅうはケーキをのこらず食べて、ねむってしまいました。

そこでイアソンは、りゅうの上をのりこえて、木からくぎをぬきました。

イアソンは金の毛皮を上着の下に入れて、アルゴ号へ走っていきました。

メデイアもいっしょに行って、イアソンのおよめさんになりました。

ああ、王さまのおこったことといったら！金の毛皮も、しんちゅうの牛も、りゅうの歯も、なくしてしまったのです。そのうえ、むすめまでいなくなってしまいました。

王さまは、イアソンをつかまえようと、家来たちを船で送り出しましたが、つかまえることはできませんでした。

とうとう、メデイアとイアソンと、ほかのアルゴ号のゆうしたちは、ギリシャに着きました。

そこには、イアソンのお父さんがいました。お父さんは、とても年をとっていました。イアソンはお父さんに王さまになってほしかったので、お父さんをわかがえらせてくれるよう、メデイアにたのみました。

そこでメデイアは車に乗って、空を飛んでいきました。

メデイアは、九日のあいだもどってきませんでした。メデイアは、おかで花をつみました。いろいろな石も見つけました。

家に帰ると、メデイアはそれをみんななべに入れて、にました。

それから、なべにぼうを入れると、ぼうから葉っぱが生えてきました。

しるが少し地面にこぼれると、草が生えてきました。

それでメデイアは、このしるには物を育てる力があるとわかりました。

イアソンのお父さんがねむると、メデイアはそのしるを少し、お父さんの口に入れました。

すると、白いかみの毛は黒くなり、口には歯が生えてきました。

目をさましたお父さんは、見た目も気分もわか者のようになっていました。

お父さんは何年も長生きしました。そしてお父さんがなくなると、イアソンが王さまになりました。

たんご と クイズ　イアソンとりゅう

dragon りゅう	**cake** ケーキ	**nail** くぎ
coat 上着	**ships** 船	**pot** なべ
stick ぼう	**grass** 草	

Q1 メデイアは、どうやってりゅうをねむらせましたか？

① 歌を歌って　② ねむくなるものを入れたケーキで　③ つるぎでたたいて

Q2 王さまがかんかんにおこったのはなぜ？

① ケーキをとられたから　② りゅうがにげたから　③ 金の毛皮もむすめもいなくなったから

Q3 ふしぎなしるを飲んだお父さんは、どうなりましたか？

① わか者のようになった　② ずっとねむってしまった　③ りゅうにかわった

こたえ

Q1 ②　りゅうはケーキが大好き。メデイアはねむくなるものを入れたケーキをつくり、イアソンが投げてやりました。

Q2 ③　金の毛皮や牛やりゅうの歯をなくし、そのうえむすめのメデイアまでイアソンといっしょに行ってしまったのです。

Q3 ①　白いかみが黒くなり、歯も生えて、見た目も気分もわか者のようになりました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #7841（E. Louise Smythe、1904年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1904 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Sarah Jennings、Abby（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。